

第45回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

戦後80年 非戦平和の願い新たに

1千500人が墓苑で参拝

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要は、毎年9月18日、国籍、思想、信条などを超えて、すべての戦没者を追悼する宗派の恒例法要として、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑（東京都千代田区）において修行される。

戦後80年あたり、ご門主ご親修にて修行され、駐日大使や政党代表など宗派内外からの来賓ほか、全国からの団体参拝など1千500人が墓苑で参拝した。法要は、宗派公式ウェブサイトにて同時配信された。

※ ※ ※
千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要是、すべての戦争犠牲者を悼み非戦平和の決意を新

法要に先立ち、12時45分から宗門関係団が戦後80年にあたって墓苑に集い、共に非戦平和の思いを新たにした。

法要に先立ち、12時45分から宗門関係団が戦後80年にあたって墓苑に集い、

共に非戦平和の思いを新たにした。



第45回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要



最優秀作文表彰式のようす

学校3年、木津喜乃さんの「生きた証」（高校生の部）で、表彰式では園城義孝総長より表彰状と記念品が授与された。

作文は本法要修行にあたり、次代を担う若者に、法要の趣旨である平和やいのちの大切さについて考えてもらおうと毎年募集しており、宗門関係の全中学、高校に応募を呼びかけ、本年は全国の中学校

校12校、高校15校から校内選抜を経た54作品が寄せられた。

中学生の部最優秀賞の山本さんは、戦争で兄を亡くした曾祖母の辛い思いに寄り添い、同じ心の傷を持つ人を増やさないことが使命との決意を述べ、高校生の部の木津さんは、大阪・関西万博で見た被爆者の懐中時計に「一つの人生」の存在を感じ、いのちの大切さ、平和を守ろうと生きることの大切さを述べた。作文朗読には、会場から大きな拍手がおこられた。

次代をになう若者の平和への強い思いを受け止め、参拝者一同、宗門一体となつて平和の実現への決意を新たにした。

※ ※ ※

続いて、聖歌隊の「千万の」「み光りの」「みほとけは」のコーラスのなか、教区代表者、江東学園幼稚園の園児が献華。本年は、千代田中学校、国府台女子学院高等部、武藏野大学から代表者が参拝、

献華及び聖歌隊として大役をになつた。



聖歌隊によるコーラス

また、聖歌隊には、本年も中仏同窓生混成合唱団「衆会」、東京教区寺族女性「沙羅」、築地本願寺合唱団楽友会の協力を得て、墓苑は仏教讃歌の歌声に包まれた。

※ ※ ※

続いて13時20分より、仏のみ教えと平

たにするため、1981年から修行している。

墓苑には、派外からは、宗教界よりの来賓として日本宗教連盟、全日本仏教

会、WCRP日本委員会、政党代表者をはじめ国会議員の参拝が、派内からは築地聞真会、築地あすなろ会、拓心会、中

京あけぼの会、龍谷顕真会の聞法団体をはじめ、宗会議員、宗門関係学校、築地

本願寺総代および評議会評議員、各教区の教区会議長、門徒総代会会长、本願寺参与などの来賓が参拝した。

また仏教青年会連盟や各教区からの参拝団が戦後80年にあたって墓苑に集い、共に非戦平和の思いを新たにした。

法要に先立ち、12時45分から宗門関係団が戦後80年にあたって墓苑に集い、

共に非戦平和の思いを新たにした。



園城総長が「戦後80年にあたっての平和を願うメッセージ」を読みあげた

るよう、過去を反省し、問い合わせ続け、私たちがいま何をなすことができるか、将来の世代に何を残していくかを念頭に、紛争相次ぐ世界情勢にあって、平和の実現へ継続して取り組んでいくことが肝要となる。戦後80年にあたり、国籍、思想、信条を超えて、すべての戦没者を追悼する法要への参拝を通して、共々に非戦平和への思いを新たにした。

▼ご門主、沖縄、長崎、広島をご巡教
7月3日から5日にかけ
戦後80年にあたる本年、各地で追悼法要が行われるなか、ご門主は7月3日から5日にかけ、沖縄県宗務特別区、長崎教区、安芸教区をご巡教された。

戦後80年 宗門の非戦平和への取り組み

「平和の鐘」が、生徒作文最優秀賞受賞

の山本さん、木津さんによって撞かれ、庭儀が参進。同時に全国の寺院にも梵鐘を撞くことを呼びかけ、共に恒久平和への願いを新たにする「平和の鐘」の取り組みが続けられており、今回は本山本願寺をはじめ、新潟別院、福井別院、八

和への決意を全国に響かせることを願う「平和の鐘」が、生徒作文最優秀賞受賞の山本さん、木津さんによつて撞かれ、庭儀が参進。同時に全国の寺院にも梵鐘を撞くことを呼びかけ、共に恒久平和への願いを新たにする「平和の鐘」の取り組みが続けられており、今回は本山本願寺をはじめ、新潟別院、福井別院、八



平和の鐘

幡別院、山口教区山口南組信光寺で梵鐘を撞く様子が映像で同時配信された。

引き続き、4月に京都・本願寺で開催された「平和フォーラム」において発表された「戦後80年にあたつての平和を願うメッセージ」を園城義孝総長が力強く読みあげた。

●中学生の部
国府台女子学院中学部
山本麗菜さん
「戦争のない世界へ」
●高校生の部
相愛高等学校
木津喜乃さん
「生きた証」
●中学生の部
武藏野大学中学校
小野田夢風さん
●優秀作文
敬徳高等学校
植木琴美さん
兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校
立岩虹海さん
相愛中学校
都築心南さん
山中怜美さん
●高校生の部
国府台女子学院高等学校
植木琴美さん
敬徳高等学校
植村勇斗さん
敬徳高等学校
岩石和佳奈さん



築地本願寺本堂で修行された戦後80年記念追悼法要

▼千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要を前に
築地本願寺において「平和を願うつどい」
9月17日

9時30分より、「築地本願寺戦後80年記念追悼法要（平和を願つて）」が築地本

13時30分からの法要は、ご門主ご親修にて、正信念仏偈（音楽依用）をお勧めし、最後に「みほとけにいだかれて」を斎唱して終了した。

「平和を願うメッセージ」の結びにあ

宗門関係学校生徒作文入賞作

●中学生の部
国府台女子学院中学部

都築心南さん

相愛中学校

山中怜美さん

●高校生の部
国府台女子学院高等学校

立岩虹海さん

敬徳高等学校

植木琴美さん

兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校

立岩虹海さん

相愛中学校

都築心南さん

山中怜美さん



満堂となったへいわフォーラム



総合研究所・社会部主催によるパネル展



映画上映のようす

た。糸井氏は国際社会でも核兵器に反対する人が若者を中心に増えていることに触れ、平和問題は常に声を上げていくことが必要で、被団協の活動の継続がノーベル平和賞の受賞につながったと述べ、箕牧氏は現在紛争で苦しんでいる子どもたちの姿を日本の80年前の状況に重ね、生きている限りは永遠に、戦争だけは何としてもしてはならないと世界に訴え続けると満堂の参拝者に語った。

閉会にあたり、「へいわフォーラム」を主催する「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会社会部門長 藤本亮純氏が挨拶した。

▼千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要にあわせ、築地本願寺でパネル展・映画上映

9月1日から18日、築地本願寺のインフォメーションセンターロビーにおいて、「戦時下本願寺の歴史と戦後80年の歩み」

をテーマに「人権パネル展」が、総合研究所、社会部の主催により行われた。

また、9月17日、18日の両日、総合研究所「ドキュメンタリー沖縄戦」(知られる悲しみの記憶)が築地本願寺インフォメーションセンター多目的室で上映され、参拝者が視聴した。

宗派の戦後80年の「非戦平和」への取り組みは総合研究所ホームページでも報告されている。



ジェイコブ・コーラー氏による被爆ピアノの演奏

願寺本堂で修行され、奇山明憲宗務長が挨拶、阿弥陀経を勤めた。本願寺派布教使、藏田了然師が法話し、法要の趣旨である平和への願いについて、戦時は仏教徒かどうかにかかわらず「大和魂」という言葉で万事抑制されてきたが、戦後築かれてきた平和な時代の継続を願うこと

が大切として、仏説無量寿経の「兵戈無用」や親鸞聖人のお言葉を引きつつ、真

13時30分からは「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会主催で「へいわフォーラム—2025—」が「わたしの被爆体験とその後の人生」をテーマに開催された。

開会式は重誓偈の勤行にはじまり、実践運動東京教区委員会委員長 東森尚人

11時からは、本堂前でジャズピアニストのジェイコブ・コーラー氏が「被爆ピアノ」を演奏。イマジンやジブリの楽曲、また故郷など誰もが知る曲が次々に演奏され、会場には、被爆ピアノで国内のみならず海外でも多くの依頼を受け、公演を行っていることなどが語られた。広島で被爆したピアノを前に、原爆投下前にはそこにあつた、ピアノを弾む家族の団らんの風景を思い、炎天下にもかかわらず仮設テントや本堂の日陰、本堂前石段と、多くの人が足をとめ、境内にピアノを中心とした大きな輪ができた。

続いてノーベル平和賞を受賞された日本原水爆被害者団体協議会(被団協)の代表委員で、安芸教区山県中組明覚寺門徒の箕牧智之氏が登壇し、3歳で被爆した当時のことや両親のことなどその生き立ちと、戦後の核兵器禁止条約などの国際情勢にも言及したうえで、被爆者が生きているうちに核兵器をなくすことが被爆者全員の願いであると語った。

後半は箕牧氏と、武藏野大学総長で相愛学園学園長の糸井徹宗氏との対談が行われ、糸井氏の質問に答える形で箕牧氏が、戦時下や被爆時の生活や町の様子、ノーベル平和賞を受賞した折のことを語つ

実信心や御恩報謝としてのお念仏について語った。法要後の焼香には参拝者の長い列ができた。

11時からは、本堂前でジャズピアニストのジェイコブ・コーラー氏が「被爆ピアノ」を演奏。イマジンやジブリの楽曲、また故郷など誰もが知る曲が次々に演奏され、会場には、被爆ピアノで国内のみならず海外でも多くの依頼を受け、公演を行っていることなどが語られた。広島で被爆したピアノを前に、原爆投下前にはそこにあつた、ピアノを弾む家族の団らんの風景を思い、炎天下にもかかわらず仮設テントや本堂の日陰、本堂前石段と、多くの人が足をとめ、境内にピアノを中心とした大きな輪ができた。



講師をつとめた箕牧智之氏